

令和元年度
事業報告

〔 自平成31年4月 1日
至令和 2年3月31日 〕

I 事業及び収入・支出の概要

1. 事業活動の概要

- (1) 調査・研究事業については、研究会として「農業・工業原材料生産と光技術研究会（第21回）」および「光科学技術で拓く脳・精神科学平和探求研究会（第18回）」を開催した。
また、光産業創成大学院大学に委託して「レーザー科学技術の将来」を研究課題として調査を実施した。
- (2) 「晝馬輝夫 光科学賞」の授与、及び研究への助成については、秀でた研究者1名を選出して「晝馬輝夫 光科学賞」を授与して顕彰した。研究助成事業については、第1課題テーマ“光科学の未知領域の研究—とくに光の本質について”及び第2課題テーマ“細胞間あるいは分子間の情報伝達についての研究”をもって広く公募し、当年度の新規助成として第1課題15件、第2課題13件、前年度の継続助成として第1課題16件、第2課題18件に対して研究資金の授与による助成を行った。
- (3) 普及啓発事業については、毎年開催している「浜松コンファレンス(第36回)」を開催、またインターオプト展示会に出展し委託研究の報告書集を広く配布した。
- (4) 交流・協力事業については、他機関・団体の主催する事業にも協力し、外部研究者等との交流に努めた。

2. 事業活動における収入・支出の概要

- (1) 経常収益としては、一般企業からの寄付金110,200千円、基本財産・特定資産・運用財産の運用収入約36,071千円、各種会議・研究会等の参加料収入約349千円、このほか宿泊棟の利用料収入が約291千円あり、全体として約146,912千円であった。前年度に比し約7,789千円増加した。
 - (2) 一方、経常費用については事業費が約132,715千円で前年度に比し約28,582千円の増加となっている。増加の大きな理由は、「光科学技術で拓く脳・精神科学平和探求研究会」（隔年毎開催）を本年度は開催したことおよび財団事務局の人員増によるものである。管理費については、前年度に比し2,715千円増となっている。
3. 以上の結果、経常収益合計約146,912千円と経常費用（事業費と管理費の合計）約151,898千円との差約4,986千円が経常面での一般正味財産減少となった。

II 年度末正味財産の状況

流動資産	56,366,849円
現金預金	56,366,849円
固定資産	3,613,883,111円
基本財産	3,546,159,900円
特定資産	50,000,000円
その他固定資産	17,723,211円
流動負債	115,610円
預り金	115,610円
正味財産	3,670,134,350円

III 事業活動の内容

1. 調査・研究事業（定款 第4条第1号関係）

(1) 研究会の開催及び委託研究の実施

① 研究会の開催

名 称	農業・工業原材料生産と光技術研究会(第21回) 『光センシング農業の新展開』
開 催 日	令和元年10月16日(水)、見学会 17日(木)
開 催 場 所	浜松市／ホテルクラウンパレス浜松 浜松市／シブヤ精機株式会社浜松本社
参 加 人 数	研究会 139名、見学会 27名

〈資料1：農業・工業原材料生産と光技術研究会（第21回）〉

名 称	光科学技術で拓く脳・精神科学平和探求研究会（第18回） （英文名称：The Eighteenth Conference of Peace through Mind/Brain Science）
開 催 日	令和2年2月18日（火）～20日（木）
開 催 場 所	浜松市／ホテルクラウンパレス浜松
参 加 人 数	120名

〈資料2：光科学技術で拓く脳・精神科学平和探求研究会（第18回）〉

② 委託調査研究

研究テーマ	レーザー科学技術の将来に関する調査研究
内 容	国内外最新動向と高エネルギー密度科学の将来に関する調査
委 託 先	光産業創成大学院大学

〈資料3：レーザー科学技術の将来に関する調査研究〉

(2) 資料・文献の収集

光科学技術に関する資料・文献としてPhysical ReviewのA、B、C、D、E、Letters等をオンライン版にしてWeb上での検索参照ができるようにし、広く利用するよう努めた。

2. 顕彰・研究助成事業（定款 第4条第2号関係）

（1）晝馬輝夫 光科学賞

対 象 者	日本の光科学の基礎研究や光科学技術の発展に貢献する研究において、独自に独創的な研究業績を挙げた研究者個人で、応募締切時点で45歳未満の者。外国籍の場合は日本の大学等公的機関に5年以上在籍し、その間に対象となる研究成果の中核を形成された者。学識経験者による推薦書によるものとする。
応 募 件 数	5件
対象者数・金額	1名 副賞 5,000千円

〈資料4：令和元年度 晝馬輝夫 光科学賞・研究助成 一覧表〉

（2）研究助成

募 集 課 題	第1課題 光科学の未知領域の研究—とくに光の本質について 第2課題 細胞間あるいは分子間の情報伝達についての研究
応 募 件 数	第1課題 71件 第2課題 54件
助成件数・金額	第1課題 15件 第2課題 13件 総額 34,600千円
前年度継続分の助成件数・金額	第1課題 16件 第2課題 18件 総額 15,400千円

〈資料4：令和元年度 晝馬輝夫 光科学賞・研究助成 一覧表〉

（3）募集案内

国立・公立・私立大学の理・工・医の学部、関係研究科、研究機関等343施設に対し、応募要項・ポスターを直接送付、また学会誌及びホームページ等に公告を掲載し、広く募集を行った。

（4）入選者の決定

審査委員による個別選考を行ったのち、審査委員会及び理事会における審議を経て入選者を決定した。

3. 普及啓発事業（定款 第4条第3号関係）

（1）浜松コンファレンスの開催

名 称	浜松コンファレンス（第36回）－新しい文化論
内 容	光をテーマとして文化の日に因んで開催した。光科学技術における先端的研究が市民生活にどう関わり合いを持っているかを解説するとともに、光科学技術によって人類あまねく真に健康で、幸福な世界を築こうという理念を啓蒙普及したいとする集いである。 挨拶：晝馬 明 公益財団法人 光科学技術研究振興財団理事長 講演：「ニュートリノが私たちを救った？」 村山 齊 第3代浜松プロフェッサー 東京大学国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 前機構長 主任研究員・教授
開 催 日	令和元年11月3日（日）
開 催 場 所	浜松市／アクティシティ浜松・中ホール
参加人数	900名

（2）報告書・講演録等の配布

開催した研究会の講演録、委託研究の報告書等を作成し、広く配布した。

4. 交流・協力事業（定款 第4条第4号関係）

第11回慣性核融合科学とその応用に関する国際会議（大阪大学レーザー科学研究所）、第26回レーザー夏の学校（電気通信大学）、レーザーによるものづくり中核人材育成講座事業（光産業創成大学院大学）の3件について協力金を負担した。

IV 寄附金の受け入れ

運用財産として4法人から110,200千円の寄附金を受け入れた。

〈資料5：受け入れ寄附金一覧表〉

V 届出・申請

年 月 日	内 容	提 出 先
令和元年 6 月 28 日	平成 30 年度事業報告等の提出	内閣府
令和元年 9 月 20 日	第 36 回浜松コンファレンス後援名義 使用許可申請	浜松市、 浜松商工会議所、 浜松・浜名湖ツーリズムビ ューロー、 浜松ホトニクス株式会社
令和 2 年 1 月 27 日	第 18 回光科学技術で拓く脳・精神科学 平和探求研究会後援名義使用許可申請	浜松市、 浜松商工会議所、 浜松・浜名湖ツーリズムビ ューロー、 一般財団法人浜松光医学 財団、 浜松ホトニクス株式会社
令和 2 年 3 月 31 日	令和 2 年度事業計画書等の提出	内閣府

VI 理事会・評議員会等会議

理事会・評議員会・審査委員会を次のとおり開催し、それぞれ上程の議案が承認・可決された。

開催日・場所	会 議	議 案
令和元年 5 月 22 日 東京/如水会館	理事会 令和元年度第 1 回	・平成 30 年度事業報告・決算承認、他
令和元年 6 月 7 日 東京/如水会館	評議員会 令和元年度第 1 回	・平成 30 年度事業報告・決算承認、他
令和元年 11 月 29 日 東京/如水会館	審査委員会 令和元年度第 1 回	・令和元年度晝馬輝夫光科学賞選考 ・令和元年度研究助成選考 ・平成 30 年度助成の研究者に対する 継続助成選考
令和元年 11 月 29 日 東京/如水会館	理事会 令和元年度第 2 回	・令和元年度晝馬輝夫光科学賞決定 ・令和元年度研究助成決定 ・平成 30 年度助成の研究者に対する 継続助成決定、他
令和 2 年 3 月 5 日	理事会 令和元年度第 3 回 (みなし決議)	・令和 2 年度事業計画・予算承認、他
令和 2 年 3 月 6 日	評議員会 令和元年度第 2 回 (みなし決議)	・令和 2 年度事業計画・予算承認、他